

# 全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクト 今年度の取り組みと今後の展開

新・湯治 

令和4年10月

全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクト事務局  
一般財団法人日本健康開発財団温泉医科学研究所  
早坂信哉

# 環境省が取り組む温泉地活性化の方針（有識者会議提言）

## 新・湯治推進プラン

- ・ 「新・湯治」を提供する場としての新しい温泉地のあり方、環境省や関係機関に求めることをまとめたもの

### 楽しく、元気になるプログラムの提供

- ・ 泉質、地域資源を活かしたプログラムの提供
- ・ 多様な温泉地間の連携による情報発信等
- ・ 年代、国籍を問わず、長期滞在しやすい宿泊プランづくり

### 温泉地の環境づくり

- ・ 外湯めぐりの充実といった「にぎわいの創出」
- ・ 周辺の自然環境等の地域資源を一体的に評価し、持続的な利用
- ・ 温泉地を拠点とした広域周遊、国立公園満喫プロジェクトとの連携

### 「新・湯治」の効果の把握と普及、全国展開

- ・ 温泉地全体の療養効果等を科学的に把握し、その結果の情報発信
- ・ 統一フォーマットの提示により、全国的なデータの蓄積、評価、公開
- ・ ストレス社会、健康長寿社会における重要性を踏まえた準備

### 推進体制の構築等

- ・ 地域会社設立や観光組織（DMO等）の活用による体制づくり、財源確保
- ・ 地域外の民間企業等との連携
- ・ 関係省庁の連携

国民保養温泉地が中核的・先進的な役割

## 環境省全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクト 3ヵ年調査結果（平成30年度－令和2年度）

- 環境省では、温泉地の協力を得て、温泉地全体で得られる療養効果を全国初の統一フォーマットで把握。
- 全国の温泉地の視点に立って情報発信するため、「全国『新・湯治』効果測定調査プロジェクト」を平成30年度より実施した。
- 2021年8月に、2018年から2020年までの3年分のデータ(11,830件)をとりまとめて公表した。

※環境省HPで公表

[https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa\\_project.html](https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa_project.html)

※データ件数は、2021年度末時点で約17,000件となっており、今年度も調査実施中。

# 環境省全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクト 3カ年調査結果（平成30年度－令和2年度）

**結果①** 温泉地滞在後は心身に良い変化が得られました。

**結果②** 単に湯に浸かるだけではなく、ゴルフや登山などの運動、温泉地での周辺観光や食べ歩き、マッサージやエステなどのアクティビティを行うこと等が、より良い心身への変化に関連していました。

**結果③** 長期間の温泉地滞在ではなくても日帰りや1泊2日、年間を通して高頻度で温泉を訪れることで心身への良い影響が見受けられました。

## 4年間実施しての課題

1. 個別温泉地における調査結果の活用が進まなかった
  - ・もともとは調査結果が個別温泉地でのPRにも活用されることを想定していたが、全国調査の結果の公表のみで個別温泉地の取りまとめを行っていなかったため、実際には活用が進まなかった。
2. 調査データの研究等への利活用は未実施
  - ・研究者から利用したいという要望が出てきた。
  - ・データの整備、利用ルールの整備ができていなかった。

# 今年度の取り組み

1. 「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを各温泉地で自走できるためのモデル事業の実施
2. 「新・湯治」効果測定調査プロジェクトデータの利活用

# 1. 「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを各温泉地で自走できるためのモデル事業の実施

## モデル温泉地

豊富温泉(北海道)

高湯温泉(福島県)

湯河原温泉(神奈川県)

湯田温泉(山口県)

豊後高田地区温泉(大分県)

長湯温泉(大分県)

## 1. 「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを各温泉地で自走できるためのモデル事業の実施

- これまで同様に調査に参加いただく
- 結果を調査事務局で各温泉地ごとの集計、解析
- 各温泉地のPRにそのまま使えるようにメディア向けプレスリリースを事務局で作成をして温泉地へ提供
- 温泉地の活性化に向けてメディアを活用して情報発信集客へとつなげる



「新・湯治」調査  
エビデンスの取得

```
graph TD; A[「新・湯治」調査  
エビデンスの取得] --> B[各温泉地の良さを  
それぞれ数値化]; B --> C[メディア等での発信]; C --> D[温泉地活性化];
```

各温泉地の良さを  
それぞれ数値化

メディア等での発信

温泉地活性化

報道各位

2022年度  
〇〇温泉「新・湯治」  
効果測定調査  
プロジェクト結果概要報告

～「新・湯治-ONSEN stay」の推進～

〇〇温泉利用者の〇%が睡眠の  
改善を実感！

新・湯治

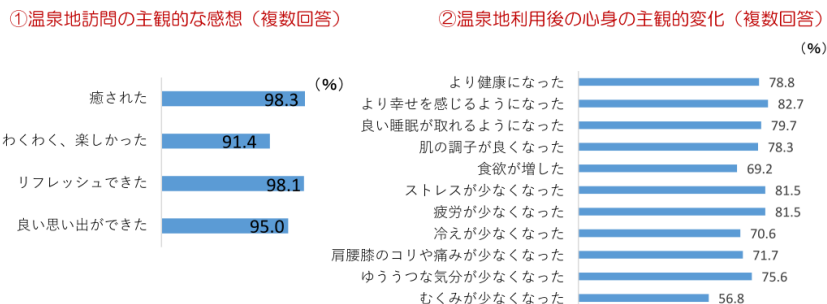
〇〇温泉では、環境省が実施しています温泉地で得られる療養効果を把握するための「全国『新・湯治』効果測定調査プロジェクト」に参加し、調査を実施しました。この度、2022年度に実施しました〇〇〇件の結果がとりまとめられましたので、ご報告いたします。

- 結果①** 温泉地滞在後は心身に良い変化が得られ、〇〇%が癒されたと感じました。
- 結果②** 単に湯に浸かるだけではなく、〇〇温泉で〇〇を楽しんだ人のほうが、より良い心身への変化に関連していました。
- 結果③** 全国平均と比べて〇〇温泉では特に良い睡眠が取れるようになったと答えた方の割合が高く、温泉の入浴で睡眠改善に期待！

#### ■調査の実施方法

- ・調査地点：〇〇県〇〇温泉
- ・有効回答数：〇〇〇件(男：〇〇人 女：〇〇人 未記入：〇〇人)
- ・対象者年齢：56.4±15.5歳(平均±標準偏差)
- ・調査時期：2022年7月10日～2022年10月30日
- ・方法：全国統一の自記式調査票(調査紙、WEB)を用いた横断調査。〇〇温泉を利用者した者へ各旅館の受付で調査票を配布
- ・調査事務局：〇〇温泉旅館組合、一般財団法人日本健康開発財団(環境省から委託)

#### ■主な調査結果(1) 温泉地訪問・利用後の主観的変化



- ・温泉地訪問の主観的感想では、「癒された」「わくわく、楽しかった」「リフレッシュできた」「よい思い出ができた」を9割以上の者が実感し、良好な変化があった。
- ・温泉地利用で、「健康」「幸せを感じる」「睡眠」「肌」「ストレス」「疲労」「ゆううつな気分」など多くの主観的項目で改善していた。

サンプル

- ・今年度はモデル的に6か所で実施
- ・来年以降はモデル事業を参考に、各温泉地主体での調査実施その結果の温泉地活性化への利用を期待

※各温泉地で自走するためのアンケート・広報媒体のひな形や、簡易な集計・解析ツール等の配布を検討中

## 2. 「新・湯治」効果測定調査プロジェクトデータの 利活用

- データを利用して、研究活動にも広く活用いただき温泉地のさらなる活性化に資することを目的とする。
- 全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクトデータ利用規則を整備。

## 2. 「新・湯治」効果測定調査プロジェクトデータの利活用

- 調査に参加した温泉地関係者、調査事務局関係者の他外部研究者等にもデータを貸与して研究等に活用。

(解析例)

- 全国と比べてここの温泉はこんな点が優れている
- こんな使い方をすると療養効果が高い
- こんな人にとって特に療養効果が高い

- 研究結果は各温泉地のPRにも活用の可能性も
- 利用可能データ: 3年間11,830件分のアンケート結果
- 利用希望者は調査事務局(日本健康開発財団)へ利用申請

※利用申請手続きについては下記HPご参照

環境省HP([https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa\\_project.html](https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa_project.html))

日本健康開発財団HP(<https://reg34.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mbrc-lisbmj-c6923c1a14cd97b47bdb50428a6d94b3>)

## まとめ

1. 「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを各温泉地で自走できるためのモデル事業の実施
2. 「新・湯治」効果測定調査プロジェクトデータの利活用